



経済学部 経済学科 大野あずさ(おおの あずさ) 准教授 フィールドワークや調査から 都市に住むアメリカ先住民の研究を続ける第一人者

■ アメリカ先住民の現代史を、彼らが形成した都市コミュニティに焦点を当てて研究。

アメリカ史研究者の中でも珍しい「都市に住むアメリカ先住民の現代史研究」を専門とする大野あずさ准教授。第二次世界大戦後に農村部に点在した保留地から都市に移住した人々のコミュニティの歴史について、フィールドワークや聞き取り調査を行いながら研究しています。大野准教授の研究活動は、自身のアメリカ留学中に、外見とアイデンティティが異なるアメリカの人種問題に興味を持ったことが発端となってスタートしました。一般的な研究者が史料調査中心になりがちなアメリカ史において、“今、生きている人に話を聞く”ことを重視し、特に2001年から18年に渡って、コロラド州デンバーの先住民コミュニティについて過去と現在の政策史、社会史などさまざまな角度から調査・研究を重ねています。

大野准教授の研究によると、先住民コミュニティの根底に流れる問題は“貧困”であり、これは15年間変わっていません。“貧困”が引き金となり、雇用問題をはじめ、ドラッグ、アルコール中毒、高校中退、若い世代の妊娠などさまざまな社会問題を生み出していますが、彼らが貧困から立ち上がるためには教育環境の改善が急務だと考えています。しかしアメリカ全人口の2%弱の先住民には、更に文化的背景や言語が異なる573もの連邦承認部族が存在し、マイノリティ中のマイノリティとも言える彼らを、学校で充実した教育環境に置くことが大きな課題となっています。

■ 「グローバル・コミュニケーションコース」では、ネイティブ講師のリレー講義を企画。

英語はグローバルな研究を行うためのツールとして使う。英語＋経済、英語＋異文化理解へ。

経済学部では、2013年度より、グローバルな人材育成を目指したカリキュラムを導入しています。このコースの中で、大野准教授は、英語圏のネイティブ講師3名を招いて、それぞれ異なるバックグラウンドを語っていただく英語講義を開講しています。日本人は英語圏のネイティブというと白人をイメージしがちですが、実はさまざまなバックグラウンドを持つ人々が数多く存在しています。

この講義では、ネイティブ講師を招く前週に大野准教授による予習講義を行い、事前に準備を経て英語講義に臨むことでより深い学びの場を作っています。もちろん講義中は日本語禁止。質疑応答も全て英語で行います。

■ 大野ゼミのテーマは「アメリカの社会と文化」。

ゼミでは、2・3年生はアメリカ研究の入門書やアメリカ史の著書を読み、ディスカッションやプレゼンを行っています。3年生の後期からは興味あるテーマの卒論執筆に集中します。また海外経験が豊富な大野准教授のもとには、留学を希望する学生達が相談に訪れることも多く、グローバルに活躍する人材を育成するためさまざまなアドバイスやサポートを惜しみません。

大野あずさ准教授 プロフィール

詳細はこちら⇒<http://webj8.osaka-ue.ac.jp/ouehp/KgApp?kyoinId=ymdegmydgggy>

1974年生まれ、神奈川県出身

経歴：アリゾナ州立大学博士課程修了（歴史学）

論文： “American Indian College Fund” and “Indian Child Welfare Act of 1978,” in 50 Events That Shaped American Indian History: An Encyclopedia of the American Mosaic (ABC-CLIO) 2016年、「アメリカ先住民の都市化―『インディアン都市移住計画（1952～73年）』と都市先住民の今」『移民研究年報』第28号pp. 33-46 2022年6月発行

主な著書：『Urban American Indians: Reclaiming Native Space』（Prager）2016年

所属学会：アメリカ学会、アメリカ史学会、関西アメリカ史研究会、Organization of American Historian、Western Historical Association ほか

< 本件に関するお問い合わせ先 >

大阪経済大学 企画部広報課 高濱 Tel: 06 - 6328 - 2431 Mail: kouhou@osaka-ue.ac.jp

大阪経済大学 広報デスク（プランニング・ポート内） 福嶋、小宮 Tel: 06 - 4391 - 7156

<https://www.osaka-ue.ac.jp>